

大嶺の吾妻のふもとから
～2024 校長室だより～
Vol.9 12月24日



終業式・表彰式が行われました。

短い冬休みとなりますが、3年生は目前に迫った共通テストに、1・2年生は各種研修、部活動、ボランティアなどに取り組み、充実した期間を過ごしてほしいと思います。

以下、終業式での式辞をご紹介します。（プレゼンテーションソフトを使っています）

昨年の暖冬とは打って変わっての大雪で、登下校にも一苦労という人も多いのではないかと思います。そんな中ですが、無事に2学期の終業式を迎えることとなりました。2024年に全員が登校する日は今日が最後となります。

突然ですが、最初に大きな話をします。

様々なメディアでは、今年一年を振り返る特集が組まれる時期となりました。よく目にする世界的なキーワードをいくつか拾ってみました。どこか別の世界の話と思うかもしれませんが、例えば物価上昇などは私たちの日常生活にも大きな影響を与えています。日々、様々なニュースが報道され、皆さんなりに興味関心を抱いた世界の出来事があったのではないかと思います。

次々に起こる出来事を通して、「様々な波が押し寄せて世界全体が不安定になっている」と表現されることがあります。しかし、不安定さは、良くも悪くも変化・変革の前兆であり、このような社会とどのように向き合い、変化、変革をどのように受け入れ、自分の軸足をどこに置いていくのかということは、特にこれからの社会を生きていく皆さんにとっては、とても重要であると思います。

あと一週間で、新しい年を迎えます。勉強や部活動で忙しい中ではありますが、社会の動きにもアンテナを高くし、高校時代を過ごした2024年、令和6年という1年をしっかりと脳裏に刻み、新しい年を迎えてほしいと思っています

さて、令和7年。世界はどうなっていくのか、日本はどうなっていくのか、そして私たちの住む地域はどうなっていくのか。

私たちの社会は、様々な分野の発展や進化によって、より豊かな生活を手に入れてきました。変革は着実に進んでいます。しかも急速に進んでいます。一つの分野がそれだけで完結するものではなく、より複雑に絡み合っていく中で進化し、新しい価値が創造されています。新しい年は、各分野のそれぞれの進化とともに、複合的に融合し、より高度な価値を生み出す流れが一層加速していくのではないかと思います。一つの分野に特化して学びを深めようと思っても、単一的な学びや思考では対応が難しい課題が多くなってきています。

物事を多角的に、多様な観点から思考して判断したり、新しい価値を生み出すことがこれからの社会においては一層重要になってきます。本校では文系・理系を問わず、探究的な学びやその活動、またSSHへの取り組みに力を入れています。これらを通して、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力の育成にも取り組んでいます。多くの学校で実践が始まっているSTEAM教育には、本校ではSSHのテーマとして掲げ、早くから取り組んでいます。これからますます複雑化、多様化する社会に必要な、資質や能力を身につけるような学びを、皆さんは行っています。基本となるのは日々の授業です。授業を通してこれからの社会を生き抜くために必要な知識や技能をしっかりと身につける。そしてそのうえで、探究活動や様々な研修を実践してきました。

2学期の始業式に、これらの活動をイベントで終わってほしくないという話をしました。探究活動、研修旅行などは、これからの時代を生きていく力を身につけるためのツールであり、これ自体が目的ではありません。探究的な学びや、1・2年生の研修旅行など、学校を離れて見聞きした知識や経験を、学びにつなげることがとても大切です。あこがれや夢を目標に変える、きっかけにしてほしいと思っています。

3年生は、いよいよその集大成の時期です。

授業を通して日々積み重ねてきた知識をベースに、興譲館の3年間で身につけた、課題に向き合う力、創造力、コミュニケーション力、協調性、批判的思考力などを、目前に迫った入試や、その先の学びのステージでいかに発揮してほしいと思っています。

最後に。

この10月に自治会執行部の3名の皆さんと、宮崎県の高鍋高校を訪問しました。高鍋高校で、私たちを待っている二人の卒業生がいました。現在、宮崎県を拠点に活動している2人が、興譲館という共通項で知り合いとなり、お互いのビジネスパートナーとして宮崎の地で活躍しています。二人からは、故郷への思い、母校興譲館への想いを高鍋高校の生徒の前で話をしてくれました。後輩へのメッセージをお願いしたところ、ビデオメッセージを送ってくれたので、最後に紹介して私の話を終わります。

